

2003.9.8

「澤井河川塾」近畿通信 Vol. 35  
(NPO法人近畿水の塾ホームページ)

////////////////////////////////////  
内川・土居川まつりに出展します！  
////////////////////////////////////

### 【河川塾NEWS】

昨年の河川塾通信で予告しましたとおり、今年は「内川・土居川まつり」に出展します！

今年で第5回を数えるこのお祭りの趣旨は『川を愛する心を喚起するとともに、市民の交流と地域コミュニティの輪を広げ、内川・土居川と共生する魅力ある堺のまちづくりを進めること』です。

近畿水の塾はこの趣旨に賛同し、河川環境改善啓発、水の塾会員間交流目的に子ども向けクイズや自然遊びの実演とともに模擬店(焼きそば)を出展(出店?)します。

また、今回初開催となる「手づくりボートレース」にも出艇決定。  
またまた、本番に強い近畿水の塾チームが内川・土居川を狭しと漕ぎまわります。

さあ、みなさん！！最近ノリノリの水の塾チームの応援に、はたまた会員交流に、そしてお祭り自体を楽しみに「内川・土居川まつり」に遊びにいらっしゃいませんか？

(イベント案内は後記)

### 【前回河川塾の内容】

「第32回澤井河川塾」

日時：8月20日(水) 19:00～

場所：センター(いつもの6F会議室)

内容： 「近木川 自然再生事業」

## 近木川自然再生事業について

河川近隣の方々との立ち退き関係の話し合い（地元対策）が工事における直接の難点

地元の合意形成が第一：ではどこまで合意できるのか

計画段階からの話し合い

川辺に人が近づきやすい形を簡単に描いてしまう

行政間では洪水の治水が遅れている地域とされている

行政としての計画は環境よりも治水に考えがいつてしまう。（河川の不確定な流れが護岸に与える影響など）

地元住民も先進的な意識にばらつきがある（河川に目を向けている人達から反対を受けるものは創りたくない。）

地域の人と話し合う場を作りたい（1回で終わるものでなく）

地域との共働という名目は国から補助金を取ってくるのに有効

ただし、どこまで国家の意識が成熟しているかが問題

注目を浴びればそれだけお金が出る

いいものが出来る・フレキシブルに対応できる

市民の後押しを受ける為、市民受けしそうな線に沿って計画してしまう。

予算がついたあとの動向

治水的に不十分な所を補う。

それだけではダメ、新たに環境についてもやっいていこう

治水面で押した方が予算が良い、ただし要望が強ければパイロット的にしてみよう

近木川汽水ワンドを作る会からの提案があがる

大阪府、タイミングを見て予算を作るためのたたき台を描く

作る会の考えていたものと違い、作る会からワンド案がでる

大阪府は計画に関わっている市民のウエイトについて懸念

（地元はこの計画をどう思っているのか）

ワークショップについて

行政：大阪府

市民：意識を持ってよってくる人

地元住民：そこにすんでいる人・365日川を見る人・小学校区・自治会等

誰の発案で計画を進めるのか

災害を考えるなら被害を受ける川辺の人（住民）

今回は自然再生事業だから昔の状況に戻したいと考えている市民（それでも実行に移すなら住民の合意は必要）

行政によるアンケート

対象：近木川流域全体

内容：ワンドか計画を知っているかどうかを聞く程度のもの（この計画を望むかどうかは入っていない）

ワンド化計画がそれだけにとどまらず、地域づくりのネットワーク形成に用いれないか  
環境改善のことで、専門的になりすぎた所で意見がまとまってしまい。地元がついて行けなくなった。

汽水ワンドを作る会自体はボランティア組織であるのでどこで話がまとまるかは考えておらず、まずは大阪府に理解を得られるものという事でそうってしまった。

国と府

大阪府よりも国の方が近木川についての認識をもっている

国から大阪府へ「どうしてワンド化計画の声を取り上げないのか？」

府は自然再生事業に乗かってする事に（ただし、ネームバリューの高い他河川でまずやってみた）

府と地元住民（川のそばに住んでいる人）

治水については話を通しやすい（安全性からくる立ち退き要求等）

なぜ、近木川の河口なのか

君塚先生による紹介

ただし、先見性にとんでいる為計画が動き出す前に地元がついて行けなくなった。かといってレベルをおとした会議をしていても仕方が無い  
あるレベルで決まったものに、どう地元をつけるか。タイミング的には予算の取れる2、3年の内にどうにかしたい。

地元がついて行けない

いつ出来るかわからないだけに関心が薄い

行政に窓口が無い（やる気があるのかどうかが見えにくい）近木川河口部は、急河川の

場所を公園サイドが土地を買い取っている。

河川環境グループという団体でなく誰という個人でないとなかなか話が進まない。

それは、ポストでもダメ（ポストをずれると、個人では動けなくなる）

住民と府という構図ではギクシャクする部分がある（府ではその地域だけを見ていると  
いうことが出来ない）

間に市が入ってくれるのが理想的、というか事業自体市を巻き込まないとうまくい  
かないのではないかな？

### 大阪府としての悩み

事業として必要な事モニタリング・アセスメント

アセスメントとは実際何をすればよいのか、専門職への外注をするにしても何をタ  
ーゲットにして外注するのか。

それをワークショップで話し合えばよいのではないかな

国から金がくる事業で地域の人たちのみの為の計画でいいのかな

地元の人たちもある程度有意識者として市民的に参加できないものかな

自治会等が排他的であり主導権争いになるということがないかな

環境だけの名目では住民の興味は薄いのではないかな

行政マン自体の育成が不十分であり、助成金で河川塾のようなものが出来ないかな

### 何が問題なのか

役割分担などのコミュニケーションについて

それぞれのセクターがそう考えているのか

初めての試みだけに切り出し方が解らない

具体的な案が出ないまま計画・行動自体が石化しつつあるのでは

### ワークショップについて2

主体として今から有志の会を募るのは時間的に無理

汽水ワンドは地元を反映しているのか

地元はどう関係があるのか（地元の声）

2年前に立ち上がった時からのブランクをどう取り戻すか

機会の設定をどういう団体がどう行うのか

地元をめぐる議論と技術的な議論がバラバラだと動かない

技術的な情報が地元に行っていない

近木川の中でも生活にとって大事な部分で無いからまとまりが悪いのではない  
か

ワークショップで戦略を立てすぎ本音が出ない状況にあるのではないか  
地元住民が自立しだせばおのずと自然再生へと目が向くのではないか  
住民がどれだけ地域に価値・自信をもてるか。例えば子供の動きによる価値や植生  
による価値など  
外から言うと反発が起きるので、内から起こさないといけない。地元を一番市  
民がバックアップという形。  
市民に了解を得ながら地元住民に了解を得ながら、早期に地元住民にワー  
クショップに参加してもらいたい  
近畿水の塾が大阪府から事務局を代行するのはどうか

[記録担当：摂南大学 小川&冨田]

## 【次回の予告】

次回、「澤井河川塾」のご案内です。

### 第33回「澤井河川塾」

日時：9月17日(水) 19:00～21:00  
・・・毎月、第3水曜日の開催です！！

集合：センター（いつもの6F会議室）

内容：「私の水辺」大発表会 2003 について  
水辺や水辺活動の評価手法、評価基準を考える

参加申込：近畿水の塾 事務局（FAX:0725-53-5325

E-mail: [mizunojuku@yahoo.co.jp](mailto:mizunojuku@yahoo.co.jp)）まで 9/16(火)締切

## 【マイリバー／川びと】

残念ながら、今回はお休みさせていただきます。

次回のリレーエッセイは西下さんをお願いしています。どうぞお楽しみに。

## 【川の情報ボックス】

### イベント情報

「第5回 内川・土居川まつり」

趣 旨 川を愛する心を喚起するとともに、市民の交流と地域コミュニティの輪を広げ、内川・土居川と共生する魅力ある堺のまちづくりを進めること。

日 程 平成15年10月5日(日) 9時30分～14時

場 所 ザビエル公園(堺市榑屋町西1丁・阪堺線花田口電停前)  
ザビエル公園西側の内川河川敷

### 内 容

手作りボート競争、堺史跡めぐり、乗船・カヌー体験、フリーマーケット、音楽、ダンスなどの催しが行われます。

入場無料。直接会場へ。

なお、会場には駐車場がありませんので、来場には公共交通機関をご利用ください。

問合せ 内川・土居川まつり実行委員会事務局

〒591-8043

堺市北長尾町2-5-13 ASA南大阪販売(株)内

TEL 072-259-5520

FAX 072-254-2000

主 催 内川・土居川まつり実行委員会、堺市

詳細案内 <http://www.city.sakai.osaka.jp/city/info/kasen/15kasen.html>



昨年の「内川・土居川まつり」の様子



やはりカヌー体験は大人気でした！

[堺市河川水路化HPより転載]

## イベント報告 1

### 私設 近木川水辺の楽校

「また、やりたい！」そんな卒業生の声から今年も開催！！

去る8月24日(日)に大阪・貝塚市 近木川で開催されました、自然遊学館わくわくクラブ主催「私設 水辺の学校」に参加してきました。

あれ？というくらい涼しかった今年の7・8月でしたが、当日は嬉しい事に暑い日になりました。「私設」と名が付く通り、有志の子ども達が集まって開催され、大人は付録、という形で子どもより大人の方が多く、せいぜい子ども達の邪魔にならないようにと参加しました。

貝塚市役所に午前9時集合し、それぞれ車で移動したのですが、一番最後の私たちの車がちゃんとして来ているか、前を走っているワゴン車から男の子が後ろ向きで時々こっちを見てくれている姿には、大人にはない子どもならではの気配りと可愛さのピームを感じました。と、言う事で彼のお陰ではぐれずにちゃんと目的地に着いたのです。

まずは白木 江都子さんから参加者全員の紹介が面白く紹介され、川へと移動。

そこで、改めて平峰さん、天満さんが子ども達に川での注意事項を幾つか言われました。

- ・ 川から離れる(トイレ等)時は必ず声をかけてから行って。
- ・ 川の中は浅い所・急に深くなっている所があるから十分気をつけて。

溺れたら慌てずに「助けてー」と言って。

- ・ 箱メガネはよもぎで拭いたらクモリ止めになるよ。
- ・ 川の中で静かに浮いてたら魚の方から寄って来てくれるよ。

などなど。

子ども向けのお話かなと聞いていたのですが、水中でじーっとしていると本当に魚が私の足元でいっぱい泳いでいる姿には久々に嬉しくなりました。子ども達の内訳は下は4歳ぐらい、上は大学生までと幅広く、自然と上の子どもが下の子ども達の面倒をちゃんとしてみてあげていて、基本的に子ども達だけで遊んでいたという感じです。5m程の岩の上から川に飛び込む子、初めてするシュノーケルを教わりながら泳ぐ子、箱メガネと網を持って岩の側で魚捕りをする子、はたまたミニ投網教室が開かれそれぞれ体験する子たち・・・と川の中には色んな子ども達が自由になっていました。

その中で、邪魔にならない程度に大人たちが飛び込んだり投網したり箱メガネで水中を覗き込んだりという図でした。



子どもも大人も魚捕りに夢中！



上の子どもと下の子どもが手を取りあって

こうしてあっという間に午前の部は終わり、そして楽しみなお昼タイムです。メニューは、そう、皆で食べるカレーライス。自分の食べる量だけ自分で入れる・・・、遠い昔に林間学校で食べたあのカレーライスの味・気分でした。カレーライスを食べながら周りを見渡すと、やはり大人の方が多い。しかし、川に入っている時、もし何か起こった時の事を考えるとそう多いとは思えませんでした。実際に足まで川につかっていた私も思わず深みに入り「おっ」となったので子どもならもっと感じたはずです。そういう浅い深いを川で体験して、子どもなりに用心していくのでしょうか。川は危ない・危険と線引きしてしまう前に、こういう機会を通して子ども達が川でのノウハウを体感出来れば川で遊ぶ子ども達の姿を目にする場面も少なからず増えるのでしょうかね。私に捕まえられたどんくさいドンコも気の毒ですが、子ども達に魚の種類を説明した後、最後には再び川へと放されていました。よかったよかった。午後からは用事がありカレーライスをご馳走になった後失礼したのですが、数時間の川遊びで午後は眠気を感じました。これまた、遠い昔にプールの後のあのけだるさと似ていました。子ども達と混じって川遊びした合間に、なぜか昔の懐かしさを時々思い出させる1日でした。

[侑]

## イベント報告 2

大和川・淀川流域連携水環境交流会2003

活かそう水辺、つなごう流れ

・・・近畿水の塾HP > 活動報告 > 河川塾通信

<http://www.geocities.jp/mizunojuku/katudouhoukoku/katudouhoukokuTop.html>

澤井河川塾通信 Vol.035 添付資料の Pdf. ファイルをご覧ください。

[足立]

澤井河川塾フィールドワーク

木津川 精華町

・・・近畿水の塾HP > 活動報告 > 河川塾通信

<http://www.geocities.jp/mizunojuku/katudouhoukoku/katudouhoukokuTop.html>

澤井河川塾通信 Vol.035 添付資料の Pdf. ファイルをご覧ください。

[西河]

### 【事務局より】

残暑、残暑、残暑。。

最近の夏は寝ぼすけさんなのか、9月に入ってから夏らしいありさま・・・

それでも、今年もたくさんの川に出かけました！

そんな中でも、一番楽しかったのは、子どもになって魚捕りに興じた「近木川水辺の楽校」！！

何よりも、川の中に入ってする魚捕りは視覚と触覚が同時に刺激されて、楽しくて夢中になりますネ。

箱メガネも、水中眼鏡とシュノーケルも、そして投網も来年は揃えたいアイテムのひとつです。

生きもの捕りって、川遊びの原点みたいなものですよ。

魚になって泳げなくても、子どもに戻って遊ぶことはできますものね。